

幼児のピアノ導入時におけるメソッド研究

音楽班 大友智絵 陰山実優 田中瞳

1. はじめに

わたしたちは幼児のピアノ導入時におけるメソッドを研究した。現在ではどのようなメソッドがあるのかを知るために、私たちが実際に使っていた教材や、現在人気のある教材の、利点欠点を比較した。

メソッドとは教授方法のことである。

2. 教材研究

『BASTIEN 幼児のためのベーシックス』

この教材は4～6歳を対象とした初めて学ぶ子のために作られている。

大きなイラストが特徴的で、簡潔な内容で習得すべきポイント、座り方や手の置き方など基礎知識が無駄なく書かれていた。

欠点として挙げられるのは面白みに欠ける点だ。ほかの教材には椅子を叩くなどの学び方が載っているが、歌を歌うのみで生徒が飽きてしまうことがある。

『はじめてのピアノ・アドベンチャー』

長所は遊びがたくさん詰まっている点である。キャラクターも多く、CDを使って歌を歌ったり椅子叩いたりなどの学び方が特徴的だ。

短所として挙げられるなどは無駄が多いことだ。この教材はページ数が100ページ近くあり、これはほかの教材と比べても同じ内容を学ぶにも関わらず、圧倒的にページ数が多い。

『トンプソンはじめてのピアノ教材』

この教材は子供たちが、スムーズにピアノの演奏に入っていくことを目指している。

そのために「声を出して読む練習」とともに、ワークシートを使って「楽譜を読む練習」が与えられている。

短所は2つあり、1つは楽譜の大きさが小さく視覚発達が未熟な幼児には読みづらい。

2つめの短所は文字が多くて、未就学の幼児には少し難しい。

『YAMAHA のオルガン・ピアノの本』

長所として、楽曲と練習曲を交互に収録されているのでスムーズにスキルを習得できる。また、譜面が大きくて読みやすい。

しかしほかの教材とくらべると、内容が不十分なところがある。拍子記号やリピート記号などと言った楽譜上の約束事が表記されていないため、講師による補充が必要であると考えられる。また、イラストが昔ながらのイラストで今の子にはあまり向いていない。

3. 教材案作成

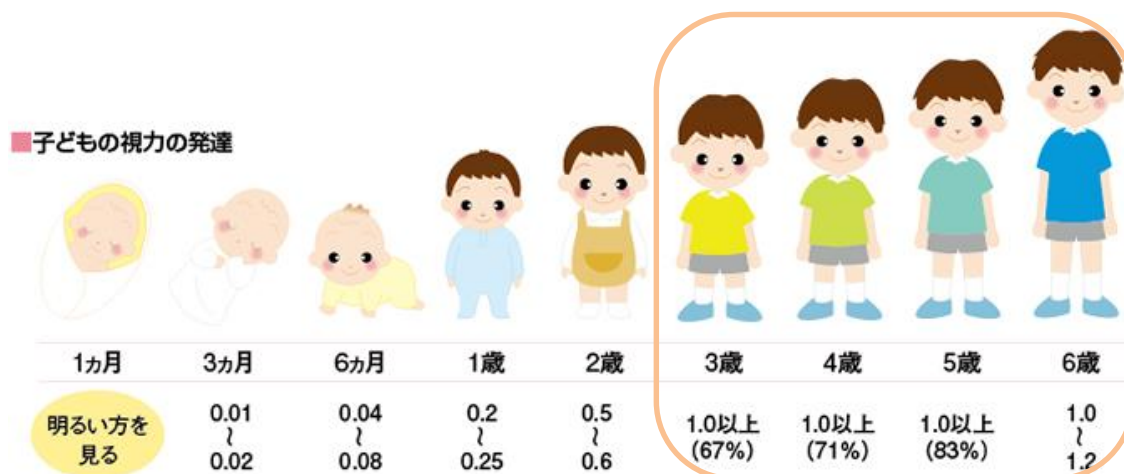
たくさんの教材を見てきた中で重要だと思ったことを参考にし、共通の理論というテーマに基づき教材作成時に子供向け作るために必要なことを考え、教材案を作成した。

- 《共通した理論》 比較したメソッドにおける共通点を分析、研究した。
- 《視覚未発達への対応》 同じアルファベット・数字を見つける練習を取り入れた
- 《左右の手の指番号》 各指に色を決め色を塗り、覚えやすいように工夫した。
- 《ト音記号とヘ音記号》 すぐに読むのが難しいヘ音記号の読譜が安易になるように作成した。また、ヘ音記号とト音記号がどうつながっているかを分かりやすく大譜表で表した。

《共通の理論》

I 文字や譜面が大きい点

ここに幼児の視力発達に関する表を提示した。



これを見ると、6歳に達するまでの視力発達には個人差があると言える。一般にピアノを習い始める年齢として多い3～6歳に注目しても同じことが言える。よって文字や譜面が大きいのは、幼児の視力発達を考慮するものであると結論付けた。

II 表紙や挿絵がカラフルな点

ここで幼児の色彩発達についてまとめた。

乳幼児の色彩発達

- 生後すぐ 黒、白、グレーなどのモノクロ
- 明度の認識
- 生後一週間 赤→黄→緑→青
- 色相の認識
- 生後3か月 あらゆる色を識別
- 生後6か月 立体感や遠近感を掴む
- 3歳 個人差はあるが、大人と同じ視力を得る



これを見ると、生後すぐは明度のみ、生後1週間から赤→黄→緑→青の順に色相の認識を始め、3歳頃に大人同様の認識が可能となる。この色の認識の順番が関係して幼児は明るい、明度の高い色もしくは原色を好むと考えられる。ただし、白は幼児の視覚に刺激が与えられず色彩発達が遅れる可能性があり、黒は威圧感を与える色であると言われているので、色彩認識の順に関わらず、幼児の好きな色ではない。ディズニーのテーマパークにもこのようなカラー戦略は用いられている。

ディズニーランド



ディズニーシー



III リトミック要素が取り入れられている

リトミックとは、楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、

身体的、感覚的、知的にも、これから受けるあらゆる教育を十分に吸収し、それらを足がかりに大きく育つために、子どもたちが個々に持っている「潜在的な基礎能力」の発達を促す教育である。特に幼児期は、様々な事に興味を持つ時期であると同時に、1つの事に長時間集中することが難しい時期であるとも言える。そのため、先程紹介していたようにCDが付いていたり、アクティビティが豊富であったり、幼児のための導入教材には幼児を飽きさせないよう様々な趣向が凝らされている。またリズムは幼児期の習い事としても非常に根強い人気を持つため、教材に取り入れることはまさにそうした世の中のニーズにも適応していると考えられる。

《視覚未発達への対応》

おなじアルファベットはどれかな？ おなじアルファベットにまるをつけよう



おわったらせんせいに
まるをつけてもらおう



なんもんあったかな？

おなじすうじはどれかな？ おなじすうじにまるをしよう



おわったらせんせいに
まるつけをしてもらおう



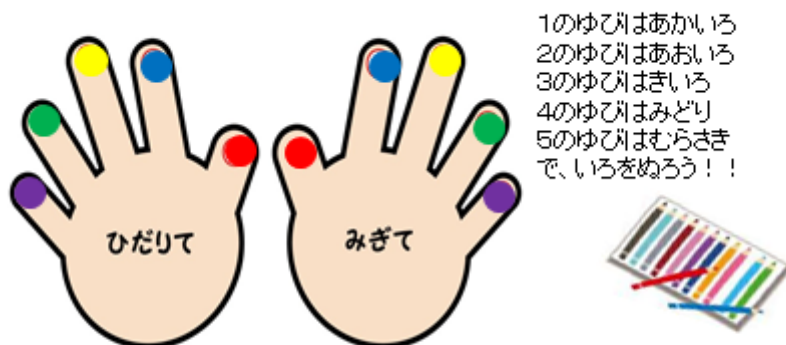
なんもんあったかな？

上の図の教材案は音楽で主に使うアルファベットと数字を使い、同じ文字を探し、このようにまるをつけるというごく単純な作業である。しかし、目の発達は5～6歳くらいまでかかると言われているので、未就学児にとっては難しい問題になると考えられる。これは1世代前の教材ではよく取り入れられていたが、現在の教材ではあまり見かけない。しかし、音楽では鍵盤の場所を見る、楽譜を読む、など、耳と同じくらい必ず目の力が必要になると考え、教材案を作成した。また、音楽でも使う文字を使用しているので同時にその文字を覚える機会にもなる。

また、この教材案を作成するにあたって、ひらがなのみを使うこと、大きな文字を使うことに意識した。もちろん未就学児には漢字を読む力がない。

先ほども述べたが、未就学児はまだ目の発達段階である。そのため小さく細かい文字では読めない場合もあり、目をなるべく疲れさせないようにでき、目への負担もなるべく小さくしようと思い大きな字を使用した。

《左右の手の指番号》



鍵盤を滑らかに弾くために各指に番号が振られている。両手とも親指から小指に向かって1・2・3・4・5と振られていて、これを指番号という。

これは指番号を覚えるための教材案である。まずそれぞれの指に色を決めて番号のところに色を塗る。色を使う理由はまだ目が未発達な未就学児にとって活字の数字のみでは数字を間違えて読んでしまったり、そもそもの意味も理解できなくて、嫌気がさし、やる気もなくなってしまう可能性があります。色を使ったらほかの色と間違えることもないので、今後も指番号を書くときは数字と一緒に色を塗ると理解も深まると考えられる。

ここでは色の指定がありますが個人個人で好きな色を塗ることも未就学児にとっては楽しみになる。

他の指番号の覚え方はまず 手と手を合わせます 先生が一番の指と言ったら生徒は親指を動かします。ほかの指も同様に2番と言ったら人差し指を、3番と言ったら中指を、4番と言ったら薬指を、5番と言ったら小指を動かします。絵のように両手で開けたままより重ねることで右手左手両方の指番号をスムーズに覚えることができます

また他にもこの教材の利点は文字と文字の識別をはっきりさせる、文字を覚えるといったことがあります。目の発達と脳の発達をいかにサポートするかを考えました。また教材を作った時の意識点はひらがなのみを使う、大きな文字を使うといったことです。発達に合わせて子供たちに不便がないように作成しました。

曲のイメージを膨らませるものの具体例としてテキストの強弱記号のページについて

最初に基礎的なピアノ・フォルテの記号のページについて

p

ピアノ

ネズミのようなちい
さいなおとをひきます



幼児が強くとか弱くとか言われると強弱のイメージが十分にわかないと考えられるので、幼児が理解できるようにライオンなどの動物のイラストを用い、強弱のイメージをわかりやすく記しました。また、幼児に強くもしくは弱く弾くというと、鍵盤を勢いよくつく場合もあると考えられるので、大きい・小さいと、鍵盤をつかないように表示しました。

f

フォルテ

ライオンのようなおおき
いおとをひきます



次に、音の大きさの変化を表すクレッシェンドやデクレッシェンドのページについて



クレッシェンド

きしゃがちかづいてくるよ
うな
ちいさいおとからおおきいおとにな
ります



大きい音から小さい音になります。これも先ほどと同じように十分にイメージをわかせるために、汽車のイラストを用い、汽車が近づいたり遠ざかったりする感じを強弱の変化として表現しました。



デクレッシェンド

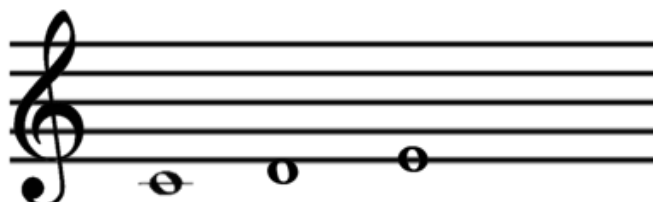
きしゃがとおくいってしまうよ
うな
おおきいおとからちいさいおとにな
ります



ト音記号とヘ音記号の関係性のページについて

ト音記号のページについて

ト音記号

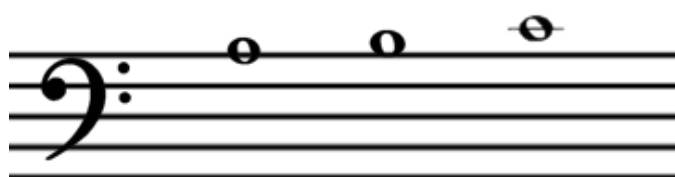


まんなかのド

ト音記号ではあらかじめ真ん中のドという表示を一番左の音に記しました。また、その右側に配置が少しずつ高くなっている音を置くことでト音記号の記す音を理解できるように作成しました。

ヘ音記号のページについて

ヘ音記号

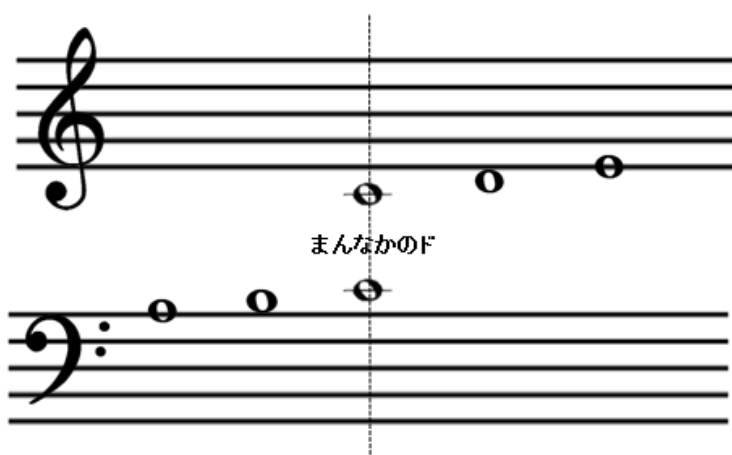


まんなかのド

ヘ音記号については、幼児は可逆的思考（例えば、ドシラと下がっていくもの等）を理解できないので1番右の音を真ん中のドとし、左に真ん中のドより低い音を記すことにより、ヘ音記号の記す音の理解ができるように作成しました。

ト音記号とヘ音記号の大譜表

大譜表



まんなかのド

ここでは両者の真ん中のドを点線でつなげることにより、ト音記号とヘ音記号がつながっていることを示しました。

4. 協力

NARI 音楽教室 山内那里子先生